CAMPUS KOSEI

キャンパス こうせい

vol.26

平成24年度　八戸短期大学　看護学科　宣誓式

光星学院高等学校　チャリティーゴルフコンペ

光星学院高等学校 硬式野球部
第94回全国高等学校野球選手権大会 準優勝
（デーリー東北新聞社提供）

Contents

法　人
・法人改革の一環として校名変更

八戸大学
・八戸大学、八戸短期大学オープンキャンパス開催
・第61回全日本大学野球選手権大会出場
・第５回介護従事者のための公開講座
「かいごの学校」開講

八戸短期大学
・八戸小唄「流し踊り」に短大１年生が参加
・平成２４年度学科行事　砂浜彫刻を開催
・平成２４年度看護学科宣誓式を開催

光星学院高等学校専攻科
・ＥＶ電気自動車講習会開催

光星学院高等学校
・第94回全国高等学校野球選手権大会　準優勝
・インターハイに出場して「柔道部・陸上部・レスリング部」
・インターンシップで仕事の現場体験、系列上級学校で学習体験
・俳優　西岡徳馬氏を迎え教育講演会を開催

光星学院野辺地西高等学校
・ＰＴＡ環境美化活動を実施
・一日体験入学、学習体験・部活体験を開講

野辺地西高等学校　体験入学

キャンパスこうせい第26号　2012（平成24年）年9月19日発行

法人改革の一環

平成25年度から学校法人光星学院のすべての学校名について、統一性のある名称に変更することが理事会で決定されました。

各学校の新たな名称は次のとおりです。

※（　　）内は現校名

◆八戸学院大学	（八戸大学）
◆八戸学院短期大学	（八戸短期大学）
◆八戸学院光星高等学校	（光星学院高等学校）
◆八戸学院光星高等学校専攻科	（光星学院高等学校専攻科）
◆八戸学院野辺地西高等学校	（光星学院野辺地西高等学校）
◆八戸学院短期大学附属幼稚園	（八戸短期大学附属幼稚園）
◆八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ	（八戸短期大学附属聖アンナ幼稚園）
◆八戸学院短期大学附属幼稚園びわの	（八戸短期大学附属びわの幼稚園）
◆八戸学院短期大学附属幼稚園第二しののめ	（八戸短期大学附属第二しののめ幼稚園）

このたびの校名変更に際して、各学校の長による校名変更検討委員会が中村覺理事長の指導の下、様々な議論が重ねられました。また、各学校の後援会などの外郭三団体に対しても説明会を開催し、ご理解を頂きました。今回の決定に伴い、今後は新しいシンボルマークやシンボルカラーなどの策定が行われ、来年春には「生まれ変わった新たな学院の未来へのメッセージ」が全国へと披露・発信されます。

校名統一は更なる法人改革への第一歩

中村覺理事長の就任以来、学校法人光星学院は、幼稚園・高校・短大・大学と、個々の様々な改革に果敢に取り組んで着実な成果をあげてきました。しかしながら我が国が直面している少子高齢化の大きな波は改善の目処もたっておらず、ここ青森県は次ページの表に示すとおり全国動態を上回るスピードでその困難に直面します。

1992年に205万人いた我が国の18歳人口は、既に４割減の120万人となっており、2030年には６割減の87万人に激減します。そしてこれは人口動態的に既に確定した未来であり改善される余地はありません。一方で青森県の大学数は11校から減少しているわけではありません。また各学校も教職員の数を４割減らせるわけではありませんし、むしろこれからの競争に備えて施設や教育内容を向上させるための積極的な投資が必要となります。

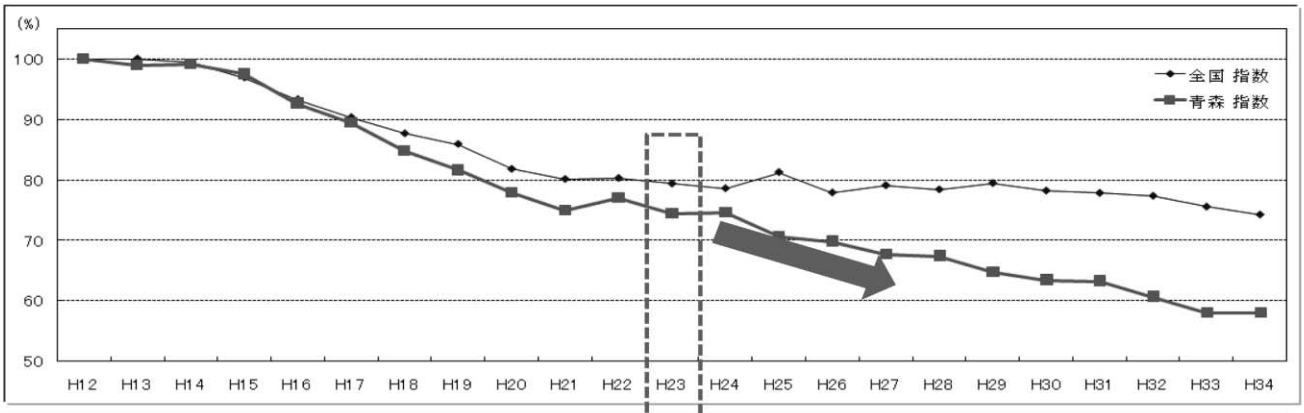
すなわち私たちは法人全体をあげて一致団結し、これから必ずやってくる熾烈な大競争時代に立ち向かわなければなりません。幸い過去の改革の成果で光星高校や短期大学、附属幼稚園は相対的には好調でした。しかし10年、20年先を鑑みると決して安泰ではありません。各学校間の連携を今まで以上に強固なものとし、かつ一体感を持って法人全体の体質と体力を今から強化する必要があるのです。

夏の甲子園で光星高校は、輝ける三季連続準優勝で改めて全国にその名前を轟かせました。本当に素晴らしい大活躍で、恐らく全国民誰しもが「光星」の名前を耳にしたことでしょう。ところがこの光星学院が青森県八戸市の高校であることは意外と知られていません。北海道あるいは福島の高校と誤解されることもあります。つまり最も強力なブランディング要素である「地名」が光星学院と結び付いていないのです。また同様に多くのプロ野球選手を輩出している強力な野球部を有する八戸大学と同じ学校法人、系列校であることは八戸地域以外では驚くほど知

として校名変更

青森県の18歳人口の増減

青森県で見ると、平成23年を基準に5年後は1380人（約10%）減少、10年後は3239人（約22%）減少



		H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022
全国	人数	1,511	1,512	1,503	1,465	1,410	1,365	1,325	1,299	1,236	1,211	1,214	1,200	1,188	1,228	1,178	1,195	1,185	1,201	1,182	1,176	1,169	1,142	1,122
	指数	100.0	100.1	99.5	96.9	93.3	90.4	87.7	86.0	81.8	80.2	80.3	79.4	78.6	81.3	77.9	79.1	78.4	79.5	78.2	77.9	77.4	75.6	74.3
青森	人数	19,789	19,588	19,622	19,301	18,336	17,712	16,776	16,156	15,407	14,834	15,237	14,728	14,777	13,973	13,828	13,402	13,348	12,813	12,563	12,525	12,016	11,489	11,489
	指数	100.0	99.0	99.2	97.5	92.7	89.5	84.8	81.6	77.9	75.0	77.0	74.4	74.7	70.6	69.9	67.7	67.5	64.7	63.5	63.3	60.7	58.1	58.1

※全国人数は百の位で四捨五入　単位（千人）

このままの推移で八戸大学の入学者も減少すると仮定すると、
定員充足率は5年後に61%、10年後に53%に減少

RECRUIT　未来が、楽しみになる学びを、ひとりひとりに。

※資料：リクルート

られていません。昨年調査した結果、八戸市を除く青森県内でも76％、全国では94％が両校が系列校であることを知りませんでした。また春の選抜の準優勝後に調査会社が実施した調査があります。光星学院が首都圏のテレビに露出した時間をテレビＣＭに換算した費用効果はなんと28億円もありました。今夏の甲子園については算出していませんが、それ以上の効果が創出されたことでしょう。この強力な知名度が何らかの形で統一されると、幼稚園から大学までの法人全体のブランド価値を大きく向上させることにつながります。

新たな学院を構築する決意と象徴

今後、中村覺理事長の強いリーダーシップのもと、校名の変更と統一を「第二創業的改革の第一歩」として、法人の更なる強化・改革が進行しますが、校名変更は外形的なものに過ぎません。今後は時代に即した新たな魅力あるカリキュラムや、系列校のみならず地域の学校との連携を重視した教育体制、更なる教育の質的向上、より地域と共存する存在感のある学校法人、現場を支える教職員の意識改革と強化を不退転の覚悟で進めていく必要があります。過去を否定するのではなく、過去に感謝して新たな名称を冠とすることは、強い決意として全国に発信されることとなります。

統一される新たな名称「八戸学院」のもと、全教職員・園児・生徒・学生が誇りを持って中村由太郎初代理事長が唱えた「立体的学院構想」の実現に取り組みたいと考えています。

校名変更検討委員会委員長
八戸大学 学長　大 谷　真 樹

第94回全国高等学校野球選手権大会

輝く準V

◆第94回全国高校野球選手権大会

○決　勝

	1	2	3	4	5	6	7	8	9		計
光星学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
大坂桐蔭（大坂府代表）	0	0	0	1	2	0	0	0	×		3

○準決勝

光星学院	3	0	0	1	0	2	0	0	3		9
東海大甲府（山梨県代表）	0	0	0	0	1	1	0	0	1		3

○準々決勝

光星学院	0	0	0	0	0	0	0	3	0		3
桐光学園（神奈川県代表）	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0

○３回戦

光星学院	3	0	2	0	0	0	2	2	0		9
神村学園（鹿児島県代表）	0	0	0	0	1	2	0	0	1		4

○２回戦

光星学院	0	1	0	0	0	1	0	0	2		4
遊 学 館（石川県代表）	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0

２年連続６回目の出場となった第94回全国高等学校野球選手権大会は、選手達の素晴らしい活躍により昨年の夏・今春の選抜に続き３季連続の準優勝という偉業を成し遂げることができました。甲子園大会での選手達の成長、チームとしてのレベルアップは20年間チームを見てきたなかで過去にないもので、改めて高校生の無限の力の大きさに驚かされました。しかし、甲子園出場への道のりは決して平坦なものではありませんでした。青森県史上初の４季連続の甲子園出場と選抜甲子園大会準優勝校としてのプレッシャーが我々に襲いかかってきたのです。いつもは普通にできていたプレーができなくなり私の采配も手堅い守り一辺倒のものになってしまい、チームから勢いを奪ってしまいました。県予選の初戦、２戦目と連続で延長戦になりその後も苦しい戦いの連続でしたが、選手達の『負けてたまるか』という思いが対戦校より少しだけ上回り優勝することができました。苦しみを乗り越え掴み取った栄冠は我々に多くのことを教えてくれ、チームは強く逞しく成長することができました。甲子園に入ってからのチームは、県予選とは見違えるような勢いとキャプテンの田村

光星学院高校の快進撃は、多くの人たちが希望と勇気と元気を

光星学院高等学校硬式野球部の皆さん、
感動ありがとう

を中心に大変まとまりのあるチームに変わっていました。宿舎での生活態度も素晴らしく戦いに向けての姿勢が整っていました。組み合わせは激戦ブロックに入り強豪校ばかりとの対戦でしたが選手達は存分に力を発揮し見事準優勝という素晴らしい結果を残してくれました。決勝の翌日朝日新聞社にて高野連会長との懇談の席でキャプテンの田村が「自分は大阪出身ですが八戸の方々にここまで育てていただきました。八戸に帰りましたら感謝の気持ちを伝えたいと思います。」と言いました。この言葉を聞いた時３季連続の準優勝よりも価値あるものを得た気持ちになりました。こんな素晴らしい選手達と野球をやれて私は本当に幸せです。

甲子園大会出場にあたり、多忙の中募金活動をしていただいたＰＴＡの皆様や父母会の皆様、多くの方々に支えていただきました。感謝の気持ちを忘れずに今後も鍛錬していきたいと思います。ご声援ありがとうございました。

硬式野球部
監督　仲井宗基

◆第94回全国高校野球選手権大会 青森大会

○決勝

	1	2	3	4	5	6	7	8	9		計
聖愛高	0	0	0	1	0	1	0	1	0		3
光星学院	1	0	0	0	0	2	0	2	×		5

○準決勝

大湊	0	1	0	0	0	0	0	0	0		1
光星学院	1	0	0	0	0	2	1	1	×		5

○準々決勝

弘前工	0	0	2	0	0	0	0	0	0		2
光星学院	2	0	0	0	0	0	3	1	×		6

○４回戦

光星学院	1	1	2	1	2	2	2				11
八戸北	0	0	0	0	0	0	0				0

（７回コールド）

○３回戦

光星学院	2	0	3	0	0	0	0	1	0	2	8
青森山田	1	0	3	1	0	0	1	0	0	0	6

（延長10回）

○２回戦

光星学院	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
三沢高	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

（延長10回）

いただきました。準優勝おめでとう。

八戸大学

第22回 光星学院親睦チャリティーゴルフコンペ開催！

平成24年８月６日㈪八戸カントリークラブにおいて、第22回 光星学院親睦チャリティーゴルフコンペが開催されました。

今年も県内外の企業や外郭３団体（父母の会、後援会、同窓会）のご協力をいただき、昨年を大きく上回る161名の参加者を迎えることができました。

コンペ終了後には八戸パークホテルにて懇親会が開催され、チャリティーの収益金が大会長（学校法人光星学院 理事長 中村 覺）より「東日本大震災復興支援金」として八戸市へ寄贈されました。

引き続き表彰式が行われ、前半のスコアによる成績発表や抽選会で大いに盛り上がり、また、光星学院高等学校の「夏の甲子園出場」という明るい話題で賑やかな雰囲気の中、無事に終了しました。

※ゴルフコンペは、雷雨により途中で中止となりました。

全日本大学野球選手権　東京ドーム！
【第61回全日本大学野球選手権】

春季北東北大学野球リーグ戦において無敗のまま優勝した八戸大学硬式野球部は６月11日㈪より開催された第61回全日本大学野球選手権大会に出場した。

本学硬式野球部の初戦は、６月12日㈫東京ドームで行われた１回戦で中国地区大学野球連盟代表の岡山商科大学と対戦。

秋山翔夢投手の好投もあり、初回から先制点を挙げるなど序盤からペースを掴み、５回には打線が爆発し一挙４点を挙げ完全に試合の流れを掴んで結局８－１（８回コールド）で勝利し２回戦に進出。

翌日の６月13日㈬に行われた２回戦では同じ東京ドームで東都大学野球連盟代表でプロ注目の投手を持つ優勝候補の亜細亜大学と対戦。

ホームランで先制され、敵失で一度は同点に追いついたもののスクイズ、ホームスチールなどで徐々に加点され苦しい展開が続き、９回に１点を返したものの結果は４－２と惜しくも敗れた。

しかし、敗れはしたものの、最終回の攻撃で２者連続三振からの３連打で１点を返すという驚異的な粘りは八戸大学硬式野球部の存在を見せた試合だった。

また応援隊も八戸からスクールバス２台でかけつけ、50名（野球部員39名、ブラスバンド11名）と少ない人数ながらも東京ドーム内に大音響となる見事な声援を送った。

「土曜講座」
（「'12そうけん土曜講座」修了）

地域住民に生涯学習の一環として大学レベルの知識と学習機会を提供することを目的とした「'12そうけん土曜講座」の全10講義（土曜日開催）が修了した。６月２日から７月28日にかけて計５日間にわたり開催され、受講料は無料で、のべ185名が受講した。講義は八戸大学、八戸短期大学の教授、講師、外部講師により「子どもの健康と体力」「コミュニティビジネス」「知的財産」「歴史」「介護」「犯罪心理」「学校経営」「認知症予防」「美と健康」など多岐にわたる内容で行われた。弁理士の富沢氏による知的財産についての講座では、著作権や商標、発明とはといった内容の他にギターでの弾き語りといった普段とは趣向を変えた講座となった。短大看護学科の岩織先生による認知症についての講座では、多くの方の関心が高い分野であったため、受講者の方々も真剣に耳を傾けていた。岩手医科大学医師でシニア野菜ソムリエの宮田氏と当研究所客員研究員で株式会社ノースビレッジウエルネス共同創業者の藤代氏が講師を務めた美と健康についての講義では、「八戸美人」をテーマにして、地元食材を活かした健康に関する講座とアンチエイジングの視点から、青森県に関わりのある人物や食材など、さまざまな話題にふれながらのクロストークで笑いのある講座となった。

地域活性セミナー

本学総合研究所主催の「地域活性セミナー」は、去る６月15日に中心街のハッチにて東京農業大学教授・地域活性伝道師の木村俊昭氏を講師に迎え、約100人の来場者をもって盛況裡の内に終了した。

木村氏の講演では、ご自身の出身地である北海道をはじめ全国各地の地域活性化の現状や地域活性の理念などについてご自身の経験を基に熱く語られた。また、講演の後、弘前大学の産官学連携の状況、青森市のNPO推進青森会議における下北半島の活性化（モニタリングツアー）の状況、八戸大学における地域貢献の状況等の紹介があった。

引き続いて行われた交流会では、多くの学内外の参加者と積極的な意見交換がなされ、その後、総合研究所主催の起業家養成講座の修了生等との意見交換が夜遅くまで講師を交えて、現在の特に６次産業の現状などについて熱心な議論が行われた。

木村氏のご希望で、地域のキーパーソンや先進事例の視察についてセミナーの前後で行われ、起業家養成講座修了生が現在東北町で展開されつつあるスッポンハウスでのスッポンの養殖と今後のビジョンについて甲地氏からの説明と木村氏との現地での意見交換、講演翌日にはマルキョウ・スマイルフーズの鎌田氏が今後事業展開されようとしている国際化や自社製品の納入の状況等、高付加価値化戦略について説明・アドバイス等が活発に行われた。さらに八戸市長、商工会議所等とも八戸市の現況について説明・意見交換が為された。

今回の木村氏をお迎えしての地域活性セミナーは、本学における６次産業化を推進する新農業経営や地域活性に資する上で非常に有益であったと思われ、今後の高まる機運にしっかりと応えていきたい。

◆第５回　介護従事者のための公開講座◆

『かいごの学校』開催

平成24年６月17日、美保野キャンパスを会場に第５回介護従事者のための公開講座『かいごの学校』を開催しました。この講座は、全国の介護現場で活躍する現職者を中心とした講師が、自身の現場での実践をもとに受講者に本音でメッセージを語るというものです。５回目の今回は、「今こそ、原点回帰」をメインテーマに10の分科会を開催しました。

参加者自らが選んで受講する分科会はタイトルからしてユニークなものとなっています。例えば、「『KOGAWAが説く!! ~~引固め~~基礎固め（第２弾）』 ー会話が苦手？あんたは失格だよ!!ー」（講師：訪問介護事業所ほっと水戸　代表 粉川孝子 氏）、「『リアル・ヘルプマンへのエール』 ーわたしたちを魅了したヘルプマンたちを讃え、エールを送りたい！ー」（講師：漫画『ヘルプマン！』作者・くさか里樹 氏、講談社イブニング編集部『ヘルプマン！』担当編集者 鹿島拓也 氏）、「『厚生労働省には教えてあげないよ！』 ーホームヘルパーの面白さー」（講師：共に介護を学びあい・励まし合いネットワーク 藤原るか 氏）「激ヤバ企画が、ついに実現!! 介護職のパジャマ de トーク　私たち介護職が思うこと」など、一般の研修会やセミナーとはひと味違う講座を用意しました。

中でも、好評だったのは、「介護職のパジャマ de トーク」。現職の介護職員・デイサービス職員８名よる本音トークが繰り広げられ、サプライズゲストとして、スパリゾートハワイアンズ応援ソング「息吹」で知られるミュージシャンのAERIAL（エアリアル）が登場しました。

今回の講座は、地域の介護力アップを目的に、『学ぶ研修』だけではなく『感じる研修』も意図して企画し、青森近県に留まらず、関東などからの受講もあり、300名を超える受講者を集めました。

節目となる５回目の講座を終え、今後も地域の高等教育機関として、援助専門職を養成すると同時に、地域の介護力や福祉力の底上げする機会を作り出していければと考えています。

八戸大学人間健康学部 教員 篠﨑良勝

第１回 オープンキャンパス開催

平成24年７月28日㈯に第１回わくわくオープンキャンパスが開催され、「わくわく」のテーマの下クラブサークル紹介やキャンパスウォークなど行われました。

クラブ紹介では、軽音楽部の迫力ある演奏や弓道部による緊張感あふれる実演、八戸短期大学 Dance 愛好会「TWINKLE」の切れのあるダンスなどが高校生の歓声を集めていました。

また、今年度より誕生した写真サークル「PALETTE」も登場し、プロカメラマンで顧問の中村佳代子さんより高校生に向けてビデオメッセージが紹介されました。

クラブサークル紹介後に行われたキャンパスウォークでは、東京ドーム約5.5個分の広さを誇る美保野キャンパスを参加者の皆さんが自由に散策しました。人間健康学部の「身体組成測定」や幼児保育学科の「うちわ作成」など各学部学科ならではの趣向を凝らしたチェックポイントや、普段あまり見ることのできない八戸大学学長室見学などもあり、皆さん興味津々といった様子でまわっていました。

今後のオープンキャンパスは10月まで４回予定されており、「体験授業」や「入試対策講座」「学食体験」などが行われる予定です。また、10月27日㈯は学園祭と同日開催が予定されており、賑わいが予想され今から楽しみです。

タイ国留学生 日本語研修終了

タイ国チェンマイ県にあるファーイースタン大学ビジネス日本語学科に在籍しているパイリン・コンフーさん（愛称ザーさん）が、八戸大学ビジネス学部に外国人留学生短期日本語研修生として平成24年３月27日㈫に来日し、６月17日㈰までの約３ヶ月間、本学で日本語研修プログラムを受講した。

タイ国では、冬でも27℃以上の気候で、雪を見たこともないザーさんは、大雪の悪天候に大慌て。薄着の状態での来日だったため、急遽防寒用の服を用意し、防寒対策をした。また、タイ国では地震がないため地震の体験がなく、この日には地震も体験。「これは、本当の地震ですか？」という質問もあった。

日本語研修プログラムを受講しながら、様々なイベントにも参加した。４月に開催した新入生宿泊研修（短大）や国際交流サークル「ワンワールド」への参加のほか、ザーさん自らが講師となって学生にタイ語を教えるタイ語講座。明るい性格のザーさんは時間が経つにつれ、学生との距離が縮んでいった。また、観光地にも積極的に足を運んだ。蕪島まつり、湊の朝市、八甲田、三沢基地のアメリカン・デー、東北６県の祭りが勢ぞろいした盛岡での東北六魂祭の異文化体験等の他、附属幼稚園・光星学院高等学校の見学やうみねこマラソンにも参加するほど。多くの学生と触れ合い、プログラムを受講していく中で、かけがえのない友達をつくることができたようである。

研修プログラムの最後は、日本語によるプレゼンテーションを行い、パワーポイントで八戸での思い出を振り返った。また、児童文学（短大）の授業の課題で手作りした自分の名前の絵本や母国タイ国の歌を日本で購入したウクレレを弾きながら披露した後、日本語研修修了証を授与された。

ザーさんは「タイでは雪がなく、八戸に来て雪をみてびっくりした。そして地震が怖かった。皆さんが優しくしてくれてとてもうれしかった。また来たい。」と語り、６月17日㈰帰国の途についた。

「八戸大学」OB&OG訪問 part26

青い森信用金庫　湊高台支店
支店長　豊口順一さん
（１回生）

プロフィール

八戸高校卒、八戸大学商学部１回生。大学卒業後は、八戸信用金庫（現 青い森信用金庫）へ入庫。市内の支店勤務を経て、平成23年に湊高台支店長となる。平成24年度からは八戸大学同窓会幹事長も務めている。

■学生時代の思い出を聞かせてください

開学当時の１号館・２号館のみのキャンパスで、ゼミや部活・サークルなどを手探り状態でやっていた記憶があります。その中でも野球部を設立したことは思い出に残っています。当初は10人程度の野球愛好会からスタートしました。１年目は、大会に参加できる人数が揃わず、専攻科裏のグラウンドで練習の毎日でした。２年目からは大会に参加できましたが、バットやグローブが揃わず、八戸工業大学から借りた思い出があります。

■社会に出てから気をつけていることはありますか？

大学時代にできた人間関係や卒業後のつながりは大切な事だと考えております。実際、今勤務している支店には八戸大学ＯＢが私を含めて３名いますし、以前から八戸大学の取引店舗として直接やりとりさせていただいています。また、取引させていただいているお客様にも同期生（１回生）や後輩が多くいます。野球を通じた仲間とのつながり、同窓生のネットワークが今の仕事に大いに活かされています。

そういった「仲間」にはこれからも微力ではありますが協力していきたいと思っています。

■在学生へメッセージをどうぞ

開学当初とは違い、教室や実習設備・グラウンドが整備され、素晴しい学生生活が送れる環境が整っていると思います。いろいろなことにチャレンジしてみてください。硬式野球部の皆さんには、ぜひ日本一となって優勝旗を八戸大学に持ち帰ってきてほしいと思っています。今後、益々の活躍に期待しています。

八戸小唄流し踊りに参加

７月13日㈮午後５時30分の号砲とともに、八戸市の中心街を優雅に彩る夏の風物詩である第42回八戸小唄流し踊りに八戸短期大学１年生約200名が、若さあふれる踊りと彩りを添えた。

本学が八戸小唄流し踊りには、平成19年から毎年参加し、今年で６回目の参加となる。幼児保育学科、ライフデザイン学科、看護学科の１年生が体育の時間を利用し本番へ向けた練習を体育館で行ってきた。流し踊りの講師には、体育の専任講師を中心に踊りの基本から手ほどきした。最後のまとめとして、毎年指導していただいている泉流日本舞踊師範の泉彩菜氏から、踊りの指導をしていただいた。練習に取り組んだ学生たちは「手は中指に力を入れてしっかり伸ばして」や「向きを変えるときは、もっと手を綺麗に動かす」などのアドバイスを受けながら、カモメや波の動きを表現する優雅な振り付けを熱心に踊っていた。緊張しながらも、いかに美しく踊るかの細かいアドバイスを受け、のみ込みの早い学生たちは踊るたびに上達していった。

当日は曇りの天候ではあったが、12団体、約千人の踊り手たちが号砲を合図に十三日町の三春屋前をスタートし、七夕飾りの下をゆっくり進んだ。哀調を帯びた八戸小唄の調べに合わせ、八戸市連合婦人会を先頭に日本舞踊の団体が次々と登場した。本学は12団体中最多数の約200名は最後から２番目のスタートとなった。出番になると色鮮やかな浴衣に身を包んだ学生たちが中心街を彩り、緊張しながらも一生懸命踊っていた学生たちのまぶしい笑顔がとても印象的であった。沿道で見守っていた市民の方々から大きな拍手をいただき、八戸短期大学生が若さあふれる華やかな踊りを披露した。

スポーツ祭りで親睦を深める

学生会主催のスポーツ祭りが６月６日㈬の午後に短期大学前の運動場で開催された。短期大学３学科１・２年生約400名が一堂に会して行うもので、ゼミごとに分かれて対抗するという形式で実施されている。

このスポーツ祭りでは、スポーツ、レクリエーションを通じて身体を動かすことを楽しみ、ゼミ単位での活動を通して学生同士が連帯感や達成感を共有し、仲間づくりを促進し、学科を超えた学生全体の交流を深めるとともに、学生と教職員の親睦を深めることを目的として開催されている。

今年の種目は、長縄跳び、ジャンケン列車、トルネード、ゼミ対抗リレーの４種目に決定。白熱した競技が繰り広げられ、運動場には笑顔と歓声、そして惜しみない拍手や大声援が響き渡った。総合順位では「ライフデザイン３」チームがスポーツ祭り初の１位となり、今年度のスポーツ祭りの栄冠を手にした。初勝利をあげたライフデザイン学科の学生たちは勝利の雄叫びをあげ喜びを分かち合っていた。天気にも恵まれ、広々とした運動場で実施されたスポーツ祭りは、学科の枠を超えて親睦を深めることができ、学生たちにとって有意義な時間となったようである。

サッカーキッズリーダー講習会開催

幼児保育学科では、平成22年度より所定の講習を受講することで「日本サッカー協会公認キッズリーダー」の資格が取得できるようになり、１年次配当科目である「体育実技」の講義内で、「日本サッカー協会公認キッズリーダー養成講習会」を実施している。この養成講習会では、所定の講習・実技（指導実践含む）を受講することで「日本サッカー協会公認キッズリーダー」の資格が取得でき、一度取得すると永久的に資格を保持することができるものである。

講義では、基礎理論（１コマ）と実技指導（３コマ）を通して、「時代とこども環境の変化」「こどもの発育発達概観」「こどもたちへの接し方」「スキルゲーム」「フェアプレー」等々、学生たちはキッズリーダーに必要な知識を日本サッカー協会公認キッズインストラクターから学び、キッズリーダー（Ｕ－６）の資格を取得した。

子ども達一人ひとりの個人差や年齢差による発達を考慮し、サッカーを通して子ども達の自主性を引き出し、遊びをより楽しくしていくための指導法を学ぶことは、将来保育者となる学生の指導力を高めるものであり、積極的に保育に役立てて欲しい資格である。

2年振りの砂浜彫刻

7月11日㈬に幼児保育学科の学生約200名が八戸市鮫町にある白浜海岸で、2年振りとなる砂浜彫刻制作に取り組んだ。この砂浜彫刻制作は、幼児保育学科の学科行事として毎年行っており、今年で10回目の実施となる。子どもの好きな砂遊びを学生が実際の体験を通して、幼稚園教育要領「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域を全て網羅している砂遊びを行える場としている。また、保育者を目指す学生自身が八戸市の素晴らしい自然の中を体感し、豊かな自然から多くの学びがあることを知り、自然の素晴らしさなどを子どもたちに伝えられるようになることを目指している。

ゼミ単位全11グループに分かれ、事前に紙粘土で模型を作り、イメージを膨らませた学生たちは、スコップで穴を掘り、砂を盛り上げ、バケツで運んだ海水で砂を踏み固める。また、貝殻等を集めたりと約2時間協力して作品の制作を行った。白浜海岸には、学生たちが制作した様々な作品が並んだ。砂まみれになった学生たちは、完成された作品を取り囲み記念撮影を行ない、夏の白浜を満喫している様子が見られた。

就職懇談会

平成24年6月13日㈬八戸プラザホテルにおいて、幼児保育学科2年生を対象とした「就職懇談会」が開催された。この懇談会は、就職活動が始まる前に卒業後の選択するための一機会として、また、進路を見据えた学生生活向上の目標に向かって活動を始める出発点として位置づけている。

この日は、青森県南の幼稚園、保育園、障がい支援施設など24施設に参加していただき、担当者による「仕事内容」、「就職するにあたっての心構え」、「求められる資質」等について説明がされていた。「求められる資質」については、保育という仕事に誇りと情熱をかたむけられる人、社会人としてのマナーと行動力のある人、コミュニケーション能力のある人、明るく笑顔を絶やさず苦難を乗り越えられる人、社会福祉に熱意を持ち、誠実かつ向上心のある人等のような内容もあった。学生たちは、担当者の説明にメモを取りながら熱心に耳を傾けていた。

就職懇談会に参加した2年生の反応は「各施設の特徴や、どのような人材を採用したいのか詳しく知ることができた」、「自分なりにどういう園に勤めたいという希望を持っていたが、今日の説明で初めて聞く園の内容に興味を持ち、ぜひボランティアに行って詳しいことを知りたい」、「普段聞くことができないことを聞け、また分かりやすく教えてもらい、何が大切であるかを知ることができた」と話していた。

今回の就職懇談会が、今年度の就職率向上に結びつくことを願うとともに、これからの就職活動に有効活用してもらいたい。

看護学科　第３回宣誓式

平成24年度八戸短期大学看護学科第３回宣誓式が５月12日㈯、八戸大学会館において挙行された。宣誓式とは、看護の道を志し入学した２年生が、１年余りの基礎看護教育を終えた後、看護の専門性と責任を再認識して看護の道を歩むことを誓う式であり、今回は３期生82名が主役である。宣誓の儀では、キャンドルを手に、本学の建学の精神である「神を敬し人を愛する」ことに基づき学び続けることを、そして支えてくださるすべての人に感謝して看護の道をめざして進み続けることを力強く誓った。宣誓の儀に続き、蛇口浩敬学長が式辞、続いて社団法人青森県看護協会齋藤文子会長の祝辞が述べられた。学生を代表して横田里恵さんによるお祝いの言葉に続き、宣誓者を代表し、寺澤怜那さんより「患者さんの立場に立った看護を追求したい」と決意を述べ、最後にいつくしみと愛と学歌を斉唱し、宣誓式は終了した。

宣誓式に引き続き、宣誓式特別記念講演が開催された。はじめに看護学科長蛭田由美より講師の近藤潤子先生（学校法人天使学園理事長・天使大學特任教授）を紹介、近藤潤子先生は「近未来の看護をめざして今学ぶべきこと」と題し、講演を行った。学生からは、「看護の歴史から未来までと短い時間の中で濃い話が聞けて本当に勉強になりました。印象に残っているのは、看護は知識や技術の他に「愛」をもって、その人に思いやりをもってするべきだということです！」など、多くの感想が聞かれた。

２年生は、４月から宣誓式の準備に取り掛かる。宣誓式の意義を考え、自分にとっての意味を問いかける。クラスの合意を得た宣誓の詞を考え、今年は昨年からの目標であった暗唱しての宣誓に挑戦した。３年生の中にはボランティアで受付を手伝った学生もいた。１年生の羨望のまなざし、２年生の誇り、３年生の優しさを実感できる素敵で幸せな行事であった。

学生まちづくりコンペティションで採択される

平成24年度学生地域貢献活動助成金（学生まちづくりコンペティション）にライフデザイン学科１年生３名（野田詩織さん、小笠原千佳子さん、繋佳苗さん）がearth of H.T.D.というチームをつくり、八戸市市民連携推進課へ企画書を提出し、見事採択を受けることになった。

この学生まちづくりコンペティションは、学生地域貢献表彰制度の別名であり、学生が主体となって行う地域の振興につながる活動や、地域へ貢献する活動の事業企画を公募し、選考の上、助成金を交付されるものである。助成金を獲得した学生は、企画した事業を実施し事業終了後には、公開プレゼンテーションにて事業報告することになる。（昨年は、八工大大学院２件、八工大１件、高専１件が採択された）

今回、earth of H.T.D.が実施するプロジェクトの名称は『地元産「桑の葉」を活用した事業化と、利用拡大による地域の健康増進のための調査支援事業』で、その目的を下記の研究および実践としている。

1．「桑の葉」の農業振興を図るため、従来の農業者と異なる人たちの農業参入を実現。
2．八戸発の全国販売「桑の葉商品」の開発支援。
3．「桑の葉商品」を活用した二次商品の開発支援。
4．「桑の葉商品」の活用による地域の健康づくりへの取り組み。
5．「桑の葉商品」を活用した健康料理、飲み方の開発。

期待される効果として

1．農業の活性化～農業資源の再評価と活用によって付加価値の高い６次産業化を進める。
2．障害をお持ちのかたの就業機会の拡大により、地域への社会参加の実現を図る。
3．「せんべい汁」に次ぐ「八戸ブランド」確立への挑戦により、「桑の葉」と「八戸」を県外へ発信する。
4．市民の健康が増すことにより、市民の幸福度も向上し、さらに医療費の抑制に貢献する。

などを挙げ、グループメンバーのダイエット・美容効果をfacebookで毎日公開することも検討している。

「桑の葉」の血糖値の上昇抑制効果を利用した「桑の葉スイーツ」を開発し、甘いものを控えなければならない人達にも安心しておいしく食べて欲しい、など、身近な目標も掲げている。

光星学院高校専攻科

パークゴルフで交流

５月17日㈭午後、少し汗ばむ陽気のなか美保野パークゴルフ場において介護福祉科１・２年生と教職員とのパークゴルフ大会が開催されました。パークゴルフは高齢者にも人気のスポーツです。まず、学校から各々の車に乗り合いで美保野パークゴルフ場へ移動し、パークゴルフを一緒にプレーするグループに分かれ、

昼食を取りながら交流会を行いました。私のグループは、私を含めた２年生２人、１年生２人に松橋教諭の５人グループで、初めは緊張しながらも自己紹介や学校生活についてなど、様々なことが話し合われました。話しをするうちに緊張もほぐれて、楽しく互いを知り合うことができました。他のグループからも笑い声が絶えなく聞こえ、にぎやかに交流会を行うことができました。

開会式を済ませると、いよいよパークゴルフです。パークゴルフは、ゴルフやゲートボールより簡単で、初心者や高齢者など老若男女問わず、どなたでも楽しめるスポーツです。そのため、プレー開始直後は見当違いの場所へボールが転がっていましたが、中盤には慣れてきた

ため、みなさん上手にカップに入れていました。ただの介護福祉科の１年と２年の関係だったのが、パークゴルフを行ったことで、介護福祉士を目指す仲間として心を通わせ合うことができました。今後は、同じ目標に向かう仲間同士で共に学び、励まし、助け合いながら学校生活を充実させていきたいと思います。みなさん楽しい時間をありがとうございました。次はボウリング大会でがんばりましょう。

学生会主催「校内球技大会」開催される！

７月24日㈫９時、競技開始のホイッスルで平成24年度専攻科球技大会が始まった。今年度は、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球の４競技に熱戦が繰り広げられた。各競技同時展開で行われるため、人数の少ないクラスは、４競技掛け持ちで出場する学生もおり、苦労している様子が見受けられた。普段では見られない表情で体育館を走り回る学生もいて、各競技とも盛り上がっていた。特にバスケットボールの決勝戦は介護福祉科の２年生チーム（女子２名出場）と、男子ばかりの自動車科２年生チームの対戦となり、接戦の末、自動車科の勝利で幕を閉じた。競技終了後、

全員でバーベキューを行い、平成24年度の球技大会を終了した。暑い中での球技大会であったが体調を崩したり怪我をする学生もなく無事に終了することができた。学生会では、これからもラリー大会やボウリング大会などの行事を企画している。

ＥＶ（電気自動車）講習会開催

７月25、26日の二日間、東北自動車株式会社（青森県三八地域県民局委託事業）主催のＥＶ（電気自動車）の講習会が、自動車科の１、２年生対象に行われた。

初日は、地球温暖化や石油の枯渇などの環境問題について学んだあと、電気自動車の基礎やコンバート（自作）について学習した。実際に電気自動車（日産リーフ、三菱 I-MIEV）にも試乗することができ、音の静かさや加速性の良さが体験できた。二日目は、コンバートＥＶの分解・組み立ての実習を行い、各部品の名称や役割を確認した。実際にＥＶを目にして、部品の少なさに驚いた。ガソリンエンジンやジーゼルエンジンとは違い、バッテリとモーターで走行するため、エンジンルームはスッキリしている。電気自動車は、高電圧を使用するため、感電すると死に至ることもあり、作業をする際には感電に気をつけるようにと何度も注意があり、実習場には緊張感が漂っていた。最後に習得度テストが行われ、講習会を終了した。

電気自動車の技術は急速に進化しており、今後普及が進むにつれ、自動車整備士の仕事内容も変わって行くことが予想される。これからもこのような講習会に積極的に参加し、将来ＨＶやＥＶにも対応できる自動車整備士を目指したい。

光星学院高校

【アクティブスクール学習編】

アクティブスクール学習編は、中学生の皆さんに授業を実際に体験してもらうことにより、本校を理解してもらうこと、さらに進路決定の参考となるようにという趣旨で開催しているものである。

昨年度から、「医療看護進学コース」が増設され、４学科９コースで20の講座を開設した。保育Ⅰコースの講座、普通科の『進学』をテーマにした講座に人気があり、本校の特色である「総合学科」という一面をのぞかせているように思われる。

アクティブスクール学習編への参加者は、７月30日・31日の両日で、引率の先生方・保護者の方を含めると約900名近い人数であった。本校に対しての関心の表れととらえることができ、今後ともさらに精進を重ね、努力する姿勢が重要だと感じている。

インターハイに出場して

柔　道　部

８月２日から６日まで富山県射水市のアルビス小杉総合体育センターで第61回全国高校総合体育大会柔道競技が行われました。

今回、団体戦でインターハイ出場は、光星学院柔道部にとって16年ぶりに出場するものであり、私たちにとって念願のものでした。

私たちは、選手３人だけでなくチーム全員の力を借りて全国大会の切符を手にすることが出来ました。今まで個人戦では、全国大会に出場したことがありましたが、団体戦は全員、初めてのことだったのでいままでとは違う緊張感を感じていました。そして、この全国大会が三年生みんなとチームを組む最後の時間だったので少しでも長い時間一緒にいたいと思っていました。

初戦の岐阜県代表の大垣日大高校は、全体的に体格が大きかったものの技術では負けていないと思いました。応援していたメンバーも含め、チーム一人一人が自分のやるべき事をしようと思いましたが、気持ちをうまく前に出すことができずに３対０で負けてしまいました。しかし、試合の中で技を掛けて惜しい場面もあり、ドキドキしながら試合を楽しむことが出来たと思います。結果は負けてしまいましたが、全国大会に出場したことによって県大会とは少し違う気迫と緊張感を肌で感じることが出来ました。全国大会で経験したものをこれから後輩たちへと伝えていき、来年も優勝して吉田先生と附田先生を全国大会へ連れて行ってもらいたいです。応援ありがとうございました。

陸　上　部

本クラブでのインターハイ出場は、３年ぶり４回目で３人目となった。前回5000ｍ出場した蛯名聡勝（帝京大学）は、大学長距離界のエースに成長。学生ハーフマラソンチャンピオンとなり国際大会にも出場を果たした。

今回出場の高屋敷光生（八戸三中出）もその先輩同様に将来性充分。既に国際大会のロサンゼルスマラソンにも出場している。

毎年全国的にもハイレベルな東北ブロック大会を４位で見事通過し全国大会出場の切符を掴んだ。よもや東北優勝かと思わせるレース展開であった。ここ新潟市は、連日の猛暑でこの日も36℃。すり鉢状のトラックでは、風もなく湿度も高く蒸し暑い。選手の体感気温はそれ以上だったはずだ。その為か東北ブロック代表は、彼以外誰も本来の自己タイムを大きくオーバーする走りであった。しかし、彼は健闘した。集団の先頭にこそ立たなかったが集団の中でじっと暑さに耐え我慢しながら脱落していく選手を背に攻めの走りを続けたのだ。結果は、予選落ちであったがこの舞台で果敢に攻める走り自分の走りを出来たことは収穫であり今後の生き方を大きく変えるきっかけとなったはずだ。

少し前までは、「青森県から、ましては本校からインターハイになんか行けるはずがない」と誰もが思っていた。だが今は違う。「全国同じ高校生。臆することなくチャレンジすれば誰にでもチャンスがある」とチームメートは思い続けれるはずだ。

レスリング部

第59回全国高等学校レスリング選手権大会が８月２日から８月５日の期間で新潟県・新潟市で行われた。今年は、県予選で十年ぶりに王座を明け渡したため団体戦出場を逃し、個人戦のみの出場であった。個人戦には50㎏豊巻、66㎏上野、74㎏古川、120㎏浜谷以上４名が出場した。

50㎏豊巻は、３月に全治３ヶ月の大怪我をしながら県総体、東北大会を勝ち抜いてきた。東北大会では初優勝を果たし、勢いよく全国大会に乗り込んだ。２回戦（初戦）では豊巻らしい落ち着いた試合運びで順当に勝ち上がった。ベスト８をかけた３回戦では、１点を争う激しい展開で勝負を分けたのは組み手争いであった。一瞬の不利を相手にものにされタックルで失点。最後の一秒まで追いかけたがポイントを奪えず敗退した。66㎏上野は、先手必勝を心がけ挑んだが、勝負所で足が止まりポイントを奪うことができずに２回戦（初戦）敗退。納得の試合内容とはほど遠い内容に悔し涙を流した。74㎏古川は、いつも硬さのでる初戦を良い形で勝ち、３回戦も順調に勝ち進んだ。準々決勝では、優勝候補選手に対して圧力、技術に押され敗退。完敗した試合内容に、悔しさを噛みしめ国体での奮起を誓った。120㎏浜谷は１回戦を接戦で勝ち上がり、２回戦でチャンスがありながらも惜しくも敗退した。闘った２試合はいずれも僅差であり確実に成長を感じる試合内容であった。今後につながる試合をしてくれたと思う。

全国大会の決勝の舞台で闘う選手と比較したときに勝負所の細かい技術と一点に対する執着心が不足していた。地味でも泥臭くても最後に勝利を掴めるような戦いをめざし、来年のインターハイに舞い戻りたいと思う。応援してくださった皆様ありがとうございました。

◎個人戦

50 kg	豊巻	和守	１回戦敗退
66 kg	上野	大輝	２回戦敗退
74 kg	古川	恭円	ベスト８
120 kg	浜谷	雄樹	２回戦敗退

インターンシップで仕事の現場体験、系列上級学校で学習体験

毎年の恒例行事であるインターンシップが７月２日より行われました。生徒たちの体験は様々ですが、感想文を見ると普段授業では学べない実社会を体験でき、とても充実した日々を過ごしたようです。これからの進路決定に向けて必ず役に立つことでしょう。

ビジネス科は3日間の日程で校外実習に20名、体験学習に15名が参加。（ご協力いただいた企業８社、体験学習：八戸大学、八戸短期大学）

工業技術科は５日間の日程で自動車整備コース20名、工業技術コース26名が参加（ご協力いただいた企業39社）。

実習にご協力いただきました方々には、お忙しい中大変ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。最後に生徒の感想文を紹介します。

工業技術コース　３年Ｕ組　山本　孝太
実習先企業　㈱中屋敷建設

実習先は三沢市にある建築会社です。初日の朝、会社に向かう途中「しっかり挨拶できるだろうか、うまくやっていけるだろうか」など不安でいっぱいでした。でも学校で言われたとおり思いっきり大きな声で挨拶しました。すると会社の皆さんは優しく迎えてくれました。不安は吹っ飛び、すぐに馴染むことができました。実習場所は、三沢市食肉センター敷地内の建屋の建設工事現場です。そこでは測量の作業などをしました。墨付け作業は思ったより難しく大変でした。また、担当の方から、基本の挨拶と姿勢のこと、実際の仕事に必要な様々なことを丁寧に教えていただきとても貴重な経験になりました。

関東地区光星学院高等学校の集い

平成24年６月22日㈮東京都内アルカディア市ヶ谷において、『関東地区光星学院高等学校の集い』が開催された。この集いは、本校事業所後援会、関東地区同窓会、ご採用頂いた企業関係者、また大学や専門学校へ進学した学生など51名のご参加を頂き、和やかな雰囲気の中で行われた。

集いでは、来賓のご挨拶を本校同窓生でもある「株式会社第一ビルメンテナンス」社長三浦光一様（昭和47年卒）、乾杯のご発声は八戸からご参加の同窓会副会長安井基悦様（昭和47年卒）よりいただいた。集いの途中には、学校紹介のＤＶＤを流しながら、本校の近況などの報告も行われた。後半には、今年はオリンピックイヤーということで、オリンピック銀・銅メダリストの赤石光生様（昭和58年卒）より後輩の皆様への熱いメッセージで会場は大いに盛り上がった。最後は同窓会関東支部長菊池孝志様（昭和37年卒）の締めで集いは盛大のうちに終了した。

新しい形式での集いの開催は二年目となるが、幅広い年代に集まっていただいたことで、世代を超えた交流が深められ、大変有意義で楽しい時間を過ごすことができた。来年度はさらに参加者を増やし、情報交換の機会として、また卒業生の安らぎの場となるような集いにしていきたいと思う。

西岡徳馬氏による教育講演会

去る５月７日、５～６校時に俳優の西岡徳馬氏をお迎えしての教育講演会が開催されました。この講演会は、前校長法官副理事長の計らいで実現しました。

はじめに、学校長より挨拶があり、その後、副理事長より西岡徳馬氏のご紹介をしていただきました。

「今を輝くために」と題された当日の講演にふさわしく、爽やかに体育館に入場した西岡氏は、終始にこやかな笑顔で話してくださいました。子役時代の話から、中学校・高校時代のこと、最近の仕事の話まで、お人柄の良さがうかがえる好感の持てるお話でした。「七転八起」、「努力に勝る天才なし」、「強く思えば夢は叶う」など、生徒たちを勇気づけるたくさんのお話をいただきました。

講演会の後半は、質問タイムということで生徒たちからの質問に答えてくださいました。ＮＨＫ大河ドラマ「風林火山」でもご活躍、最近はバラエティにもたくさん出演されてご多忙中のところおいでくださった西岡氏でしたが、俳優という爽やかな印象とオーラを感じ、楽しい時間はあっという間に過ぎました。生徒たちのたくさんの質問にも笑顔で答えてくださり、将来につながる貴重な教訓をいただいた１時間でした。生徒たちはこの講演会でたくさんの勇気と元気をもらい、これからの人生の目標を考えるきっかけを与えていただいたようでした。

野辺地西高校

県高校総体

■開会式会場　青森市マエダアリーナ（青い森アリーナ）

６月４日㈮、青森市マエダアリーナ（青い森アリーナ）で、県内の高校生が集い、青森県高校総合体育大会開会式が行われた。

本校は、硬式野球部主将の嶋中 樹（たつき）君が旗手を務め、硬式野球部・バドミントン部員31名が代表として入場行進を行った。２年赤井君の『いちっ！にっ！』の元気な掛け声に足並みを揃えて、少人数ながら立派な行進を行った。

また、野辺地町立体育館で行われたレスリング競技開会式では、地元開催ということで、本校の主将 橋本 孝斗 君が、「今までライバルとして切磋琢磨してきたこの仲間たちと最後まで正々堂々と戦うことを誓います」と堂々と選手宣誓をした。

各競技団体戦の試合は、サッカー競技は、決勝で青森山田高校と対戦し０－２で敗れたものの堂々の２位。

空手道部は、女子組手団体戦決勝で青森北高校と対戦し、惜しくも２位。

レスリング部は、団体リーグ戦４位。

バドミントン部は、惜しくも男子団体３回戦敗退、女子団体初戦敗退。

また、６月下旬に行われた東北大会に、サッカー部、空手道部、レスリング部が出場、空手道競技は団体戦組手で３位、レスリング競技個人戦120㎏級で坂井隼人君が２位となった。

（宿野部　昭裕）

一日体験入学、学習体験・部活動体験を開講

７月25日㈬、本校において平成24年度第１回体験入学が行われた。連日の暑さのため、熱射病が心配されたため、給水対策を取りながらの体験となったが、事故もなく無事終了した。

12のテーマに分かれ、生徒は２テーマずつ選択（「コンピュータ体験」を選択した生徒は１テーマ選択）して体験、約100分にわたって授業・実習を体験した。

産業技術系列（以下産技系）コンクリートづくり」と「電線の接続と配線」、「君もタイヤマン」、「溶接作業」を実施、人間福祉系列（以下人福系）は「介護体験」と「染色をしよう」、教養進学系列（以下教進系）は、昨年同様の国語・理科の体験に加えて、英語・社会・情報の教科関連の授業を開講して行った。

体験に参加した生徒達は、総合学科という特徴を活かした体験選択をし、同系列の授業・実習を選んだり、産技系と人福系、産技系と教進系を選んだりと自分の進路を考えた選択を真剣に考えているような印象だった。体験後に書いてもらった感想の中には、「友達と相談して、体験を選んだ。言葉として知ってはいたが興味を持てずに来た。実際にやってみて体験した実習が楽しいことに気づかせてもらった。」（人福系体験）と感謝の言葉を綴ってくれた生徒、「聞いていた印象と全く違い、楽しく体験できた。」（教進系体験）など、また兄が本校に在籍している（教進系）生徒は「お兄ちゃんが楽しくしている気持ちが分かった。みんな優しかった。」（産技系体験）など新たな発見をおみやげに帰っていった印象の感想が見られた。

また、８月10日㈮には、２回目体験入学（部活動体験）が行われた。申し込みの締め切りが第１回と同じであったためか、昨年より少ない人数となったが、60余名の体験希望者が「硬式野球」、「空手道」、「サッカー」、「バドミントン」、「レスリング」、「熱気球」の各部活動に分かれて活動した。中学校にある部活動は実践的な体験もできたようであるが、中学校にはない競技では、基本的な動作について丁寧に指導を受けて、体験者の生徒は真剣な眼差しで話に聞き入り、時間が経つにつれて、体験場所となったグラウンドや体育館、武道館に明るく元気な声が響いた。

思い出のページ、遠足

高校総合体育大会も終わり一息ついた６月８日㈮、遠足が行われ、絶好の遠足日和となった。各学年に分かれ、生徒は高校生活の貴重な時間を過ごせたようであった。

１学年の遠足は青森県立三沢航空科学館だった。８年前にオープンした所で、どの展示機も最近設置されたばかりということもあるのか、非常にきれいで生徒は見入っていた。館内のエントランスホールはとても広く明るく作られており、入口の「光と影のゲート」を入って最初の部屋では、世界初の太平洋無着陸横断飛行を成し遂げたミス・ビードル号の偉業について展示されおり興味深く観覧していた。また、体験施設が充実しているため、生徒は無限空間体験ゾーンを始めとして色々な体験を楽しんでいた。

（山内　出）

２学年は、夏泊半島大島へ行き、バーベキューをした。天候にも恵まれ、生徒は先生から火のつけ方などを習い、自分たちで焼いた焼肉をうれしそうに会話をしながら食べていた。また、海辺を散策し、岩陰からカニなどを探したり、海辺の商店にある釣り堀で、イカやアジなどを釣ったりする生徒もおり、楽しい時間を過ごした。

（宿野部　昭裕）

３学年は十和田湖へ。子の口から休屋まで遊覧船に乗り、約一時間の湖上からの眺めを背景に笑いあったり記念撮影をしたりして楽しんだ。天気もよく、波も穏やかで、神秘的な十和田湖の湖上遊覧を満喫した様子で、下船してきた生徒達は声を弾ませながら、卒業アルバム用集合写真に収まった。更に一時間ほど各々が思い思いの場所で食事をし、散策をして高校生活の思い出の１ページに時間を刻んでいた。

（鳥谷部　寛明）

環境美化活動

毎年校内外の環境を良くしようということで、保護者・教員に協力を呼びかけ、活動を行っている。いつもは、天気に恵まれず、ドラム缶ストーブを焚き、暖を取りながら、作業をしてきたが、その日は天気も良く、部活の生徒・卒業生・保護者・教員と30名が参加となった。

朝９時から、ＰＴＡ会長の挨拶・号令の下、雑草の草刈やプランターへの花植えを分担して行った。男性陣には、花の芽なのか雑草なのか区別がつかず、過剰サービスな雑草取りをする者、プランターに入れる土の量が多かったり、少なかったり、運ぶ際プランターを倒し、土をこぼしてしまう人など、波乱万丈ならぬ波乱爆笑で、日ごろ庭いじりやガーデニングに詳しい女性陣に指導された。

段々と作業が進み、校舎の前と中庭は、見違えるように綺麗に整備され、チューリップとヒマワリぐらいしか区別がつかない私でも、花があれば、なんとなく気持ちが良くなり、精神的にも落ち着き、大変な面もあるがやって良かったという気持ちが強くなった。それに、学校を綺麗にするという考えで、生徒やＰＴＡのＯＢやＯＧも参加し、みんなで作業をすることも大きな意義があると思った。

最後に、花を植えるプランターを前にして、参加者全員で記念写真を撮り、これからもこの活動を続けていこうという気持ちが強くなった。　（南　豊）

悪コンディション 逆転に次ぐ逆転 盛り上がりの体育祭

今年の体育祭は７月６日㈮に炎天下の中で行われ、昨年とはまた違った様相の体育祭となった。それは昨年、開会式直前に雨が降り出し、競技開始後に更に強く降ってきたため、種目を割愛しながら進行させた。今年は、前日から朝方にかけてどしゃ降りに襲われたのですが、その後カラッと晴れ上がり、朝早くから、教職員で水溜り排水や砂入れをしたり、本部席を状態のいい場所へ移動させたりとてんやわんやでした。その甲斐あって、グランドはベストコンディションとは言えないものの何とか体育祭ができるような状況になった。更に今年は、軍の看板も作成、昨年以上の体育祭の雰囲気を演出できた。

開会式では、選手宣誓に３年生の山田一騎君が元気良く宣誓した。その後、体育委員長の飯田愛菜さんが演台に上りラジオ体操と続き模範となる体操を行い、競技に入った。

各種目盛り上がり、特に騎馬戦、30人31脚、リレー、綱引きは各軍ともに自軍の選手に大きな声援を送り続け大盛況でした。

騎馬戦では、各学年から男子３騎ずつ参戦し、紅白帽の取りあいをした。30人31脚は、各軍30人31脚で、タイムを競うというもので、一人転ぶと連鎖で崩れていき、そのときの応援の迫力は、並ではなかった。リレーでは、各軍サッカー部など足の速い生徒が参加した。一部足場の悪い部分があり、全力で走っていた生徒は、そこで滑って体制を崩していた。それでも、泥だらけになって全力で走る姿は、感動的でした。

閉会式では、点数発表があり、逆転に次ぐ逆転に生徒たちは大いに盛り上がり、結果赤軍が勝利を収めた。

全体を通して、とても暑い中、種目へ参加する生徒・応援する生徒が一体となって素晴らしい体育祭になりました。

（宿野部　昭裕）

八戸短期大学附属幼稚園

星の子組体操 ～貫く力～

＝年長組クラスだよりから＝

ゴールデンウィーク明けから始まった運動会の練習は「組体操」に力を入れました。映画「少林サッカー」と「少林少女」のテーマを使い、武術の構えを取り入れた演技を披露しました。どの子も凛々しく「少林少年少女」の顔になっていました。また、「けじめ」を持って取り組む事を目標に練習をした一か月、子ども達の中に何か変化が起き、表情も引き締まってきました。組体操は一歩間違えるとケガにつながります。「自分たちだけが出来る」という自覚と自信を持ち取り組み、「遊ぶときは思い切り楽しもう！」と、気持ちのスイッチを切り換えるように声を掛け続けてきました。子ども達も、知らず知らず「けじめ」が身についてきたようです。運動会を通してググッと成長し、胸を張った演技に大きな拍手を送りたいです。

一つのことに、友達と真剣に取り組むことへの意義の深さを、知らぬ間に体得していた年長組の子ども達は、運動会という大きな行事の中で、達成感を味わいながら心も体も大きく成長しました。

聖アンナ幼稚園

夏のおもいで

梅雨の晴れ間に広がった青空の下で夏の季節祭が行われ、水遊びや、シャボン玉、花びらを使っての色水作りなどを楽しみました。

八戸市の七夕まつりに、お母さまと子どもたちの、手作りのくす玉を毎年出しています。今年は、奨励賞をいただきました。

第二しののめ幼稚園

親子で自然を体感　さくらんぼ狩り

風を感じること、光のあたたかさ、水の冷たさ、目を向けてみると私たちは自然環境に包まれて生きていることがわかります。子どもたちと一緒に園庭を駆け回れば、大人が見過ごすような小さな自然を見つけだす子どもの目に驚かされます。草原からシロツメ草を摘んで綺麗な首飾りを作っては喜んだり、心地よい風に吹かれながら、木陰でのシャボン玉遊びは、時が過ぎることさえ忘れてしまうほど遊びに興じています。

今年の親子遠足は、毎年子どもたちと楽しんでいたさくらんぼ狩りを家族、親子で楽しんで欲しいと自然体験遠足を計画しました。梅雨の晴れ間の６月下旬に南郷区にある観光農園へ出かけました。近隣の小学校の代休も重なり、卒園児や、祖父母を含む家族の参加があり、世代間交流しながらの楽しい親子遠足になりました。広い観光農園では、背の高いお父さんから高い枝の赤く実っているおいしそうなサクランボを採ってもらい嬉しそうにほおばる姿や、おじいさんおばあさんに、さくらんぼ園を案内しながら一緒に味わう等、自然を十分に楽しみました。

私たちは、子どもたちが自然の持つ美しさや、不思議さに触れた時、大人も素直に感動を分かち合える機会を大事にしながら、園行事をすすめていこうと思っています。

びわの幼稚園

びわの幼稚園第35回運動会

びわの幼稚園では、天候に恵まれた７月１日㈰に35回目の運動会を幼稚園のグランドで実施しました。

整然とグランドに張られた３本の万国旗が風に揺れるなか、オープニングセレモニー鼓笛隊年長組12名が演奏する「ウイーンの音楽時計」で運動会は始まりました。

５月末、６月初め頃には音を出すことすら難しかった年長さんたちでしたが毎日の練習の積み重ねで、ご家族の皆様をギャラリーに迎え、堂々と、そして自信に満ちた見事な演奏を披露しました。

プログラムは、全部で22競技が準備され、午前の部、午後の部とお昼ご飯をはさんでの運動会となりました。全園児数が26名と少人数のため、午前中での終了という案もありましたが、ご父母の希望から今年度も午後までの開催となりました。

競技は、26名が紅白に別れ年中さんの40M走から始まり、年少30M走、年長50M走とそれぞれが一生懸命走りました。特に、年少さんの場面ではそのあどけなさに皆さんが笑みを浮かべました。

また、年長さんの競技、障害「おむすびころりん」では十分にこれまで幼稚園ホールで練習を重ね、自信を持って競技に臨んだのでしたが、水平に張られた幼稚園ホールの床と、デコボコの土の上では勝手が違うようで皆さんが悪戦苦闘しました。

午前の部が終了し、お昼休みがアナウンスされると園児諸君は家族が待つテントへ一直線。さすがにお腹がすいたようで準備してきたお昼ご飯を美味しそうに頬張りました。

午後は、年中、年長合同の紅白対抗「玉入れ」、ご父兄による紅白対抗「大玉ころがし」そして全園児による紅白対抗「園児リレー」を行い盛り上がりました。

今年度も、ご父兄の力強いお手伝いご協力を頂き自然のなかで楽しくそして、家族が触れ合う35回目の運動会となりました。

閉会式では、ＰＴＡ会長さんから「みなさん大変良くがんばりました」とお褒めの言葉をいただき園児たちは達成感を味わい運動会が終了しました。

2011年８月　第93回全国高等学校野球選手権大会
2012年３月　第84回選抜高等学校野球大会
2012年８月　第94回全国高等学校野球選手権大会

３季連続

準優勝おめでとう

準々決勝　桐光学園戦　完封の金沢

決勝戦　大坂桐蔭戦のアルプススタンド

２回戦　遊学館戦　完封の城間

決勝戦　大坂桐蔭戦　試合前

３回戦　神村学園戦 １回裏、神村を併殺にする

２回戦　遊学館戦　アルプススタンド

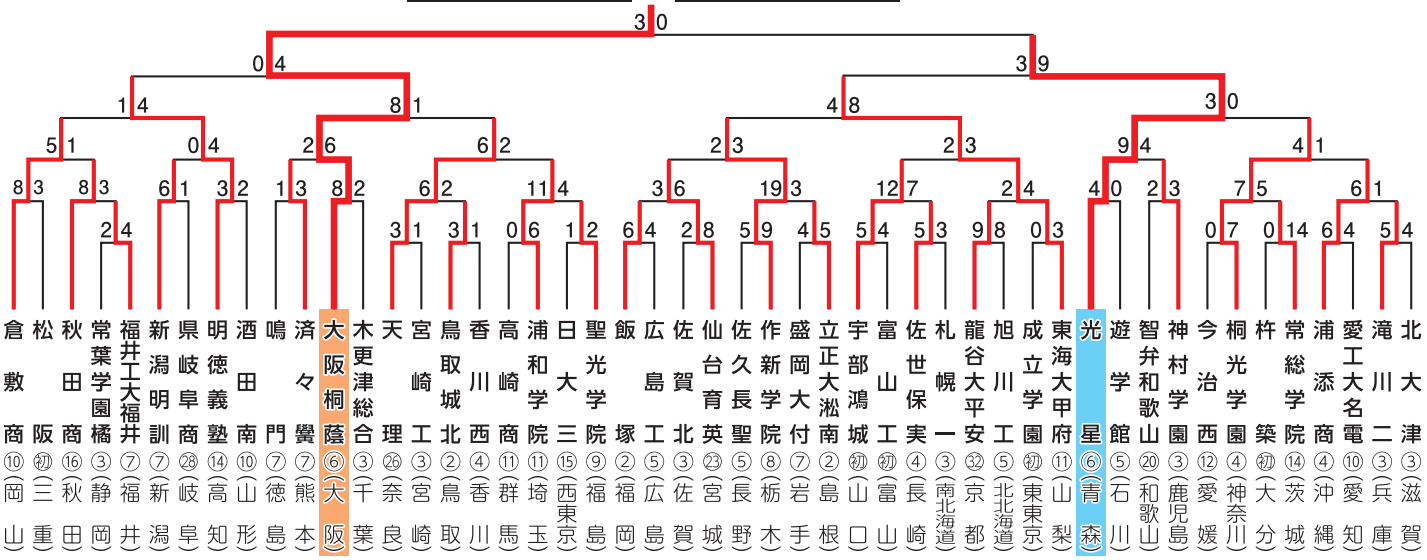
準々決勝　桐光学園戦、８回田村の先制に沸く

準決勝　甲府戦　４回北條の２打席連続ＨＲ

（デーリー東北新聞社提供）

第94回全国高校野球選手権大会の結果

優勝 大阪桐蔭　準優勝 光　星



CAMPUS KOSEI
第26号

発行　学校法人光星学院
〒031-8544 青森県八戸市美保野13-98　TEL 0178－30－1411
URL　http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/